

# 女性のための 課題解決能力向上セミナー

## 数字を読み解くチカラを身につける ～数字で見える世界と日本の女性の現状～



6月7日～7月26日まで、女性の視点で課題発見や解決提案ができることを目的として行った「女性のための課題解決セミナー」の第4回目は、国立女性教育会館の中野洋恵さんに「数字を読み解くチカラ」についてお話していただきました。

### ◆数字の効力

数字はとても重要で有効です。物事を説明したり、何かをしようとする時に説得力を持つからです。「私はこう思います」と言うより、「ここに住んでいる人たちの8割はこう思っています」と数字を用いて話すほうが、説得力があります。

現状と問題を統計によって数量的に示すことで、人々の意識を高め、改革の必要性を明らかにすることができます。もちろん数字だけでなく、質も大事ですが、今日はどのように数字を読み、理解していけばよいかを、考えていきたいと思います。

### ◆男女平等は世界共通の課題

男女共同参画の推進は、日本だけではなく、全世界が取り組んでいる国際的な課題です。国際ランキング、人口、家族、労働、ワーク・ライフ・バランス、教育、意思決定などの分野にわたるさまざまなデータから、世界と日本の男女共同参画の状況を比較することができます。

国際機関である国連開発計画が毎年出している、人間開発報告書は、戦争、紛争、貧困、災害などの数多くの問題を抱える中で、世界各国の人たちが本当に人間らしい生活ができているかどうかを、さまざまな指標を使って表わしています。人間開発指数(HDI: Human Development Index)は、「長寿を全うできる健康的な生活」「教育」「人間らしい生活水準」という3つの側面を簡略化した指数です。具体的には平均寿命、教育水準(成人識字率と就学率)、調整済み一人当たり国民所得を用いて算出しています。日本のHDIは毎年10位以内です。

一方、ジェンダー・エンパワメント指数(GEM)は、108カ国中57位です。GEMは、女性の国会議員に占める女性割合や専門職、技術職、管理職に占める女性割合、男女の推定所得を用いて算出される指数で、女性が政治及び経済活動に参加し、意思決定に参加できるかどうかを測るものです。このGEMが日本は非常に低いのです。

もう一つ、世界経済フォーラムが出しているジェンダーギャップ指数があります。男女平等が世界共通の課題となっている今、ジェ

ンダー・エンパワメント指数では元になるデータが少なすぎると、さらにいくつかの分野のデータを丁寧に集め、分析しています。すると日本は134カ国中101位です。これらの数字から日本は世界に冠たる長寿国で、みんなが学校にも行き、字が読めない人はいないけれども、男女平等がまだまだ進んでいない国であることがわかります。

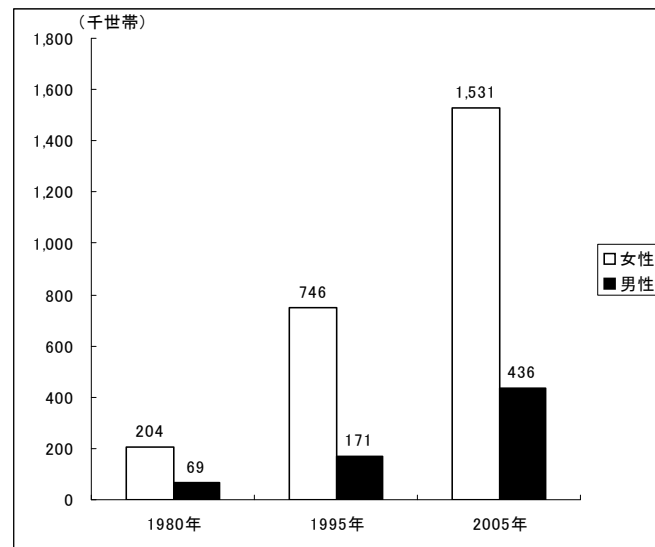
ジェンダー・エンパワメント指数(GEM)			
1位	スウェーデン	17位	フランス
2位	ノルウェー	18位	アメリカ
3位	フィンランド	:	:
4位	デンマーク	43位	ナミビア
5位	オランダ	44位	クロアチア
:	:	:	:
16位	シンガポール	57位	日本

人間開発報告書2009

### ◆人口問題から考えるこれからの社会

男女共同参画の推進を考える時、人口問題は非常に重要です。国立社会保障人口問題研究所が2005年のデータを基に、日本の人口がこれから先どうなるかを推計しています。現在、平均寿命は男性が78.5歳、女性が85.5歳です。2055年には男性は84歳、女性は90歳になり、0歳から14歳の子どもの数が1000万人減ります。一方、65歳以上は1000万人増え、高齢者と若年者層の数が相殺されます。一方、生産年齢人口といわれる15歳から64歳、つまり、その社会を支えている人が4000万人近く、大幅に減ります。この先、子どもが減り、高齢者、特に65歳以上の女性が非常に増える社会になります。

一人暮らしの人の数は男性も女性も、さほど違いませんが、年齢によって割合が大きく違います。男性は40歳から49歳が多いのですが、歳を取れば取るほど、女性の一人暮らしが多くなり、75



歳になると、一人暮らしの8割は女性です。実は、ここに問題が起きています。今の高齢女性は、おそらく物事を決めるのは男性で、若い時は父親の言うことを聞き、結婚したら夫の言うことを聞けばいいと思って生きてきた世代です。そのため、自分で決めるということがなかなかできません。現在、振り込め詐欺や悪徳セールスが大きな社会問題になっていますが、被害に遭うのは高齢女性が多く、その数は増加しています。一人暮らしになれば自分で考える力が身につけていないと、安全な生活はできなくなります。

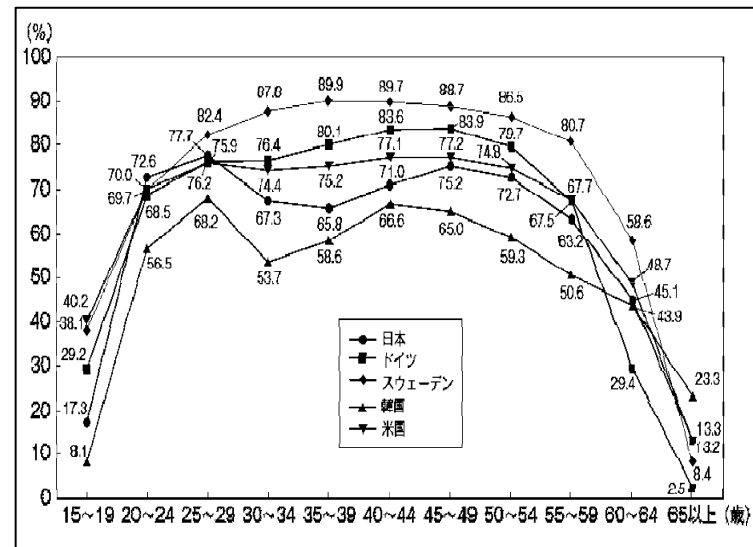
一方、男性の一人暮らしは、数の上では女性ほど多くはありませんが、悲惨です。食事を作れず、身の回りのことができず、非常に不潔な環境にある高齢男性が増えていると言われていています。男性も生活の自立ができたほうがよいですし、女性も物事を自ら考える力をもっと身につけていかないと、これからの世の中を生き抜いていくことが大変になるのではないのでしょうか。

### ◆M字型就労に見る日本女性の働き方

日本女性の労働力はM字就労と言われています。女性は学校を出ると、8割近くの人が働きますが、多くの女性は結婚や出産で辞めます。しかし、子どもが大きくなるに従い、また働きます。就労割合を横軸に取るとアルファベットのMに似ています。2歳未満の子どもを持つ女性についてみると、3割は働いていて、7割が専業主婦です。子どもが12歳から14歳になると、この割合が逆転し、7割が働くようになります。

しかし、正規職で働く女性はほとんど増えず、子どもが2歳未満では17%、12歳から14歳になっても18.3%です。一方、パートで働く人は9.5%から39.3%に増えます。結婚や出産をしても正社員として働き続ける女性の数はほとんど変わっていません。制度は整ってきましたが、子どもを持つ女性が働きやすくなったとは簡単に言えないことが、このデータを見るとわかります。

女性の働き方は、時代や国によって異なり、その国の文化や経済状況に大きな影響を受けます。女性の就労割合の描くラインは、国によって全く違います。日本よりもっとM字のくぼみが深いのは韓国です。イラン、イスラムなど、女性が外に出てはいけないなど



の厳しい戒律がある国では、女性の就労率はどの年代も非常に低く、ヨーロッパでM字を描くところは、今はほとんどありません。特に、フィンランドやスウェーデン、ノルウェーでは、男性と女性の働き方がほとんど同じです。

世界中でM字が見られるのは日本と韓国で、少数派です。そして、この2カ国は合計特殊出生率がどんどん減り、少子化に悩まされています。男性の働き方は、どこの国でも変わりません。どこの数字を見ても逆U字です。このように数字を比較すると、私たちの状況を相対化して見るができます。

また、これまで景気が悪くなると、働かなくなるのは女性でした。ところが1997年以降、完全失業率は男性のほうが上がり、仕事から排除されるようになってきたことがわかります。高齢の女性が増え、生産年齢人口が減り、男性が職を失う時代です。女性も働けるようにしていかないと、本当に家族が破綻してしまうかもしれません。

### ◆データを基に数値目標をたてる

日本の教育の場は平等であると答える人が非常に多いです。確かに高校の進学率は男女差がありませんし、大学に進学する女性も増えています。しかし、進学先を見ると、文化系が多く、理系が非常に少ないのです。国際比較で見ると理工系に進む女性の割合はOECD(経済開発協力機構)各国の中で日本が一番低いという結果が出ています。

また、日本は高等教育を受けた女性が、労働力となっていないことも課題です。他の国は、学歴が高くなればなるほど、職場に進出していきます。日本の女性は、せっかく高等教育を受けて能力があるにも関わらず、その力を活かしていないのです。もったいない話です。女性の研究者の割合も他国に比べて非常に低い。男性も女性も持っている能力を伸ばしていくことが日本の課題だと考えられます。

さらに、日本の大きな問題は、意思決定、特に政治の場に女性が少ないことです。国際ランキングで日本のGEMが低い要因はここにあります。世の中を変えていく意思決定の場に女性がいないと、女性がみずから力をつけ、道を拓いていくことができません。

去年9月の選挙で、衆議院議員の女性の割合は11.3%になりました。確かに少しずつ増えてはいますが、やっと1割を超えたに過ぎません。

政府は、第二次男女共同参画基本計画(平成17年12月)の施策の基本的方向として、2020年までに指導的地位に女性が占める割合を、少なくとも30%程度にすることを明記しています。第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)の中でも、自然科学系全体で女性の採用の目標値を25%にすることが盛り込まれました。こうした計画の中に数字を載せることがとても重要です。理工系に進む女性や、女性の科学者が少ないというデータを用いて、日本の科学技術を進め、女性の能力をもっと高めていくために目標値を25%にするということが明記されているわけです。

内閣府では今年の12月に第三次男女共同参画基本計画の策定を予定していて、現在何を盛り込むかが話し合われています。どのような分野に、どのような数字目標を入れるか、そしてそれらに基づいた計画を立てて整合性を説明することが、具体的なプラ

ンを作る時にとても重要です。



#### ◆地域の課題を見つける

政府は現在、地域の課題は地域で解決していくという方針を出しています。これまで日本の社会は、全てトップダウン方式で、国から都道府県に、都道府県から市区町村へ方針を伝えていました。しかし、地域の課題はそれぞれ違います。今、行政改革が進められています。地域の課題は地域に住んで、地域の課題がわかっている人たちが力を合わせて、行政と一緒に解決策を考えていくことが求められています。市民の力が必要とされているのです。

今日は日本全体のデータをお話ししましたが、大田区のデータも、ぜひ見てください。大田区の特徴や課題が見えてくるとと思います。自分たちの生活がどうなっているのか、そしてどのような方向をめざすのかを考える上で、データの持つ意味をわかっていたければとても嬉しいです。(まとめ 齋藤美保)



#### ●あなたの子育て経験がキャリアに変わる! 「子育てサポーター養成セミナー」(全6回)

募集: 子育て支援に関心のある方25名  
(応募者多数の場合は抽選)  
資格は問いません  
\*保育はありません。  
乳幼児一時預かり育児サポートを紹介  
資料代: 2,000円  
申込: メール(携帯可、FAXに)  
① 「子育てサポーター養成セミナー」  
② 住所 ③ 名前(ふりがな)  
④ 年齢 ⑤ 電話番号 を明記  
申込締切: 2011年1月12日(水) 必着

日時	タイトル	講師
1月24日(月) 10:00~12:00	子どもの成長と脳のしくみ① ～知って得する! 脳科学～	佐藤 佳代子さん (淑徳幼児教育専門学校 講師)
1月31日(月) 10:00~12:00	子育て支援はこんなに楽しい!	古澤 里美さん (NPO 法人ネットワークBear 代表)
2月 7日(月) 10:00~12:00	子育てサポーターに必要なこと ～今こそジェンダーの視点を～	汐見 和恵さん (新渡戸文化短期大学 教授)
2月14日(月) 10:00~12:00	子どもの成長と脳のしくみ② ～脳科学を知って ワクワク子育て～	佐藤 佳代子さん (淑徳幼児教育専門学校 講師)
2月21日(月) 10:00~12:00	子育て支援にかかせない 対人コミュニケーション力	岡 智子さん (アサーティブトレーナー)
2月28日(月) 10:00~12:00	育児力を身につける! ～みんなちがってみんないい～	NPO 法人 ネットワーク Bear

#### ●児童虐待防止サポートセミナー「一人ひとりが大切な存在と伝えたい」(全4回)

日時	タイトル
2月 1日(火) 10:00~12:00	子どもの気持ちを覗いてみよう ～今を生きる子どもたち～
2月 8日(火) 10:00~12:00	認める、受け止める、守る ～子どもとかわるオトナの流儀～
2月15日(火) 10:00~12:00	気付く、感じる、伝える ～言葉にしよう、ワタシの気持ち～
2月22日(火) 10:00~12:00	つながる、つくる、支援の輪 ～子どもが安心して過ごせる場を創るため～

区民企画講座実施団体: NPO 法人エンパワメントかながわ  
暴力のない社会の実現をめざし、CAP(子どもへの暴力防止)プログラム、デートDV 予防プログラムなど幅広い人権啓発プログラムの提供、関係機関との連携などを行っている。

募集: 30名(応募者多数の場合は抽選)  
申込: メール(携帯可)、FAX  
保育: 1歳以上の未就学児を15名 保育料1回500円  
保育希望の場合は子どもの名前(ふりがな)と月齢、FAX または PC アドレスを記載  
申込締切: 2011年1月20日(木) 必着



大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」  
〒143-0016 東京都大田区大森北 4-16-4  
電話 03-3766-6587 03-3766-4586  
FAX 03-5764-0604  
e-mail escena@escenaota.jp  
HP URL http://www.escenaota.jp/  
メルマガ escenaotamail@yahoo.co.jp  
指定管理者 NPO 法人 男女共同参画おおた

「INFORMATION エセナおおた」の発行は NPO 法人 男女共同参画おおたが区の補助を受けて実施しています。



## INFORMATION エセナおおた

第35号

平成22年12月15日

中面: 女性のための課題解決 能力向上セミナー  
「数字を読み解くチカラを身につける」  
～数字で見える世界と日本の女性の現状～

発行: 大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

# 学び、気づきがココロを軽くする 女性学講座で広がる世界



エセナおおたには、乳幼児を持つ若い世代を対象とした講座の一つに、「ココロを軽くする女性学講座」(通称「ココ軽」)があります。この講座は、女性が、ジェンダーの縛りに気づき、学習を深め、自分の意思で自分らしく生きることを考えるきっかけとし、次世代の女性リーダーを育成することを目的に企画されています。受講をきっかけに、ココロが軽くなり、大きく前進した一人の女性をご紹介します。

Aki さんが2008年秋の「笑顔のワタシでいるための女性学講座～幸せへの10のステップ～」に参加したのは、保育付きで、子どもと離れて過ごす時間ができるのが魅力だったからです。当時、専業主婦としての毎日に、特に問題も不満も感じていませんでした。

そんな彼女が、受講して「目からウロコが落ちる思い」を実感しました。それは、これまでにココロがモヤモヤしたり、イライラしたり、何故?と思ったりしたことの原因の多くが、「女だから」「男だから」といった性別による役割分担への思い込みであることを知ったからです。

講座が終了した後、学んだことを再確認したいと思い、記録誌の編集にも参加しました。すっかり面白くなって、2009年春の女性学講座も受講し、その後、秋の女性学講座企画員として、講座の企画、運営に関わることにしました。前年の編集員や受講生からなる企画会は毎週のようにミーティングを行い、講座の内容や講師の検討、日程の調整など秋の開催へ向け、話を煮詰めていきました。

そして実施したのが、2009年秋の「～がんばっているあなたへ～ココロを軽くする女性学講座」全10回です。この講座でAkiさんは、ディスカッションの進行役を自ら進んで担当し、受講者同士の活発な討論を引き出し、まとめる役割もこなしました。2008年度に続き2度目の記録誌編集でも、たくさんの

気づきを提示し、中心的存在として活躍しました。

今年、Aki さんは、「課題解決能力向上セミナー」(中面記事参照)に参加しました。このセミナーで、女性が直面する問題の多くは、社会全体の課題であると感じ、ジェンダーの問題について、更に学びを深めたいと思っています。

エセナおおたでの「学び」「気づき」を経験することにより、私生活での行動(挑戦?)もたくさん生まれています。

講師の話聞き、いろいろな価値観を持った受講者とディスカッションすることで、自分とは何か?を考えるようになりました。その過程で、自分らしく生きることは、他の人のその人らしさも認めるとのことだと気づきました。亭主閑白で彼女には主婦として完璧さを求めている夫も、「男は〇〇でなければ」というしがらみに縛られているのだと知ったり、ワーク・ライフ・バランスについて学ぶことで、夫の立場や気持ちが分かるようになりました。また、息子さんには、自分の気持ちを大事にして、悲しいときは泣いていいことや、勉強や仕事だけでなく、家事や炊事のできる人になってほしいと伝えています。

Aki さんは仕事も始めました。以前の職歴を生かせる職種ではありませんが、まず、できる範囲でできることから始めようと考えたからです。自分の夢も明確になり、子育てアドバイザーとして、子育てで悩む人たちに寄り添って行くことを実現するため、学習や行動を続けています。

Akiさんは、講座を受講しただけで劇的に自分が変化したわけではなく、2年経った今、ようやく、あの頃の自分に比べると、ココロも軽くなり、少し前進できていると感じています。

今の自分や環境をありのままに受け入れて、夢の実現に向けて一歩ずつ前進していく彼女は、自然で穏やかな笑顔に満ち、より一層キラキラ輝いています。(まとめ 坂倉嘉余子)